

平成 27 年度 第 6 回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

【開催日時】：平成 28 年 2 月 9 日（火） 午後 1 時 00 分から午後 3 時 00 分まで

【開催場所】：教育委員会 2 階会議室

【出席者】：審議会委員 14 名

阪根委員、大岩委員、木村委員、先田委員、佐藤委員、大黒委員、
高田委員、多智花委員、延本委員、藤井委員、矢金委員、矢野委員、
山田委員、山本委員

鳴門市 9 名

教育長、教育次長、教育総務課長、生涯学習人権課長、体育振興室長、
学校教育課長、副課長、事務局 2 名

傍聴者 なし

○次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事
 - (1) パブリックコメント実施結果について
 - (2) 平成 27 年度「全国学力・学習状況調査」鳴門市の結果の概要と対応策について
 - (3) 第二期鳴門市教育振興計画（案）について
 - (4) 答申書（案）について
- 4 審議会から答申
- 5 教育長あいさつ
- 6 閉 会

○会議資料

次第

- 【資料 1】 鳴門市教育振興計画審議会委員一覧（H28.2.9 現在）
- 【資料 2】 平成 27 年度第 5 回教育振興計画審議会会議概要（前回会議録）
- 【資料 3】 パブリックコメント実施結果
- 【資料 4】 平成 27 年度「全国学力・学習状況調査」鳴門市の結果の概要と対応策
- 【資料 5】 第二期鳴門市教育振興計画（案）
- 【資料 6】 答申書（案）
- 【参考資料】 鳴門市教育大綱（案）

○会議概要

- 1 開会
- 2 阪根会長があいさつを行った。
- 3 議事

議事（１）パブリックコメント実施結果について

議事（２）平成 27 年度「全国学力・学習状況調査」鳴門市の結果の概要と
対応策について

事務局より、資料 3・資料 4 について説明をした。

会 長

パブリックコメントについて、肯定的な意見を多くいただいたと思う。すでにある程度反映されているもの、二学期制・三学期制等今後参考にしていくもの、教育がどうあるべきかという意見であったかと思う。説明会も 5カ所で 18 名と少ないようにも考えられるが、逆に言えば、お出で頂いていることは非常にありがたいことのため、関心が全くないわけではなかったことが成果かと思う。基本的に我々が出そうとしている計画とそれほど齟齬があるわけではない状況ではないかと感じられた。一方で、学力調査の話を知ると、少し愕然とするような気もしている。パブリックコメント、現状も含め、実態についての皆さんのご意見をいただいた上で、次のステップに入っていきたいと思う。今までのお話を聞いた上でのご意見があればお願いしたい。

A 委員

パブリックコメントについては、今後の鳴門市教育についてこうしたらどうかという厳しいものはなかったような気がする。おおよそ、このような方向でよいのではないかという印象を持った。学力状況調査については、点数は僅差で並んでいると思うため、△印（国・県の平均よりも低い）がついていても、それほど落ち込んでいるわけではないと思う。気になったのは、P. 6、生活状況調査について、家庭と協力をしてもっと働きかけないと、ほとんどが全国平均に比べ、基本的な生活習慣、勉強時間あたりに課題が出てきているような気がした。学校だけでなく、この会でも家庭をまず考えるということで、家庭・学校・地域ということであったが、テレビゲームやテレビ、スマホ等も非常に好ましくない結果が出ている。読書にしても就寝時間、朝食にしても、ほとんどが家庭に関わる内容であるため、これから、学校・行政が家庭と地域とどう連携していくかを真剣に考えていかなくては思っている。データでも生活習慣と学力は密接な関連があると明らかに以前から教育界では出ているため、このあたりを改善することによって、学力もさらにアップされるのではないかという印象を持った。

P 委員

パブリックコメントについて、このようにご意見を出してくださる方々がいらっしゃるのだと感じていることが率直な感想である。それぞれ B と C、意見が既に反映されていたり、今後の参考にする等、出された意見に対する対応もされていてよいと思った。学力学習状況調査について、小学校の算数 B において、応用問題、自

分たちで考えて答えなくてはならない問題で、徳島県のみならず、全国的にも低いのではと思っている。考える力を身に付けておかないといけない問題が多いと思うため、AとBでの対比が大きいと感じている。P. 6、生活状況については気になる。同じくらいの時刻に寝て起きているというところで、生活のサイクルができている子が少ないのではと思った。地域や家庭について計画の中で言ってきていると思うが、それをもっと強化し、家の方から変えていくことが必要だと思う。

I 委員

パブリックコメントについて、皆さんいろいろなお考えをお持ちのため、このような意見が出てくるものだと思っている。市の考えとして、このように進められるのなら、これでいいのではないかと思っている。学力状況調査等については、P. 6について愕然としたポイントがある。子どもの寝る時間について、率から見ると、このようなものかとは思いますが、いざ孫と一緒に生活していると、もっとひどい状況である。読書について、今の子どもは本当に本を読まない。放課後子ども教室にて、学習の後、1冊は本を読みなさいとしているが、読むのは漫画に近い本であり、ちゃんとした本をなかなか読んでいない。読書が大事だとは伝えてきているが、なかなか前に進まない。今後、これを見せて頂き、参考にさせて頂きたい。

F 委員

学力学習状況調査について、小学校については、頑張っているところだが、中学校について、無解答率が高い傾向にあったのは、習っていないということか。

会 長

習ってはいるが書く気がないのであろう。

F 委員

特に、数学Bにおいて県平均正答率 39.9%よりまだ下ということである。勉強も寝る時間等も、先生方のみならず、家庭でも一生懸命教えなければいけないと思う。

Q 委員

パブリックコメント P. 2、教育を担う先生方の心のゆとりについて、教育者の現場の立場になると、ゆとりをなかなか作れないと思う。そこをどうするか、市の考え方で家庭・学校・地域・行政が連携することが一番大事だと思っている。教師が育ちということを我々、家庭一般、地域もが協力をしないと、学校は先生だけに任せておくところではないだろう。学力について、無解答率が高いということは、わかる、わからないではなく、考える力がないということではないか。考える力がなから面倒くさくなるのではないだろうか。それが一番問題であろう。国語に関しても、P. 4にもあるように、基本を身に付けていない傾向が見られましたということで、我々も一緒だが、パソコンで漢字は出てくる状況もある。手紙等、字を書かなくなったことが一番だろう。子どものみならず大人もそうである。家内が徳島新聞のコラムの写し書きをしている。これは漢字も覚え、そのときの事件・事故も載っており、社会の世相もわかりいいと思う。小さい頃、国語なら帳面に同じ字を何

回も書き覚えたものだ。繰り返すことが一番大事だと思う。

○委員

教育は一番に子どもを見つめ、先生がちゃんとしなないといけない。教育の情熱に燃えて、子どもに伝えなければならない。先生がしゃんとすると子どもは立派に育つ。その先生を支える親がちゃんとしなくてはならない。それを支えるのが地域である。学校、家庭、地域が繋がらなくてはいけない。この3つが連携を取り、子どもを見つめ、愛情を注ぐことが大事である。地域で支え素晴らしい子どもを育てたいと思う。

S委員

小5の娘がおり、小学校のテストの結果状況について、家でも宿題や授業でわからないことを聞いてきたりするため、わかる範囲では答えている。その会話の中で、担任の先生に教えてもらいに行くわけだが、「そんなのもわからないのか。先ほどの授業で言ったことだ。」で対応を終えられたということが何度か続いた。娘、同級生はこの先生には聞くだけ無駄だという雰囲気がクラス内であるようだ。実際、授業参観に行っても、黒板に板書はせずにパソコンのパワーポイントを使ってほとんどやっており、それ自体の否定はしないが、もう少し教えてほしいところもある。勉強は本人が一番頑張らないといけないが、家庭でも助言をし、学校においても、子どもから助け舟が出たときには乗っかってほしいと思った。学力調査結果を見て、それが直結しているとは思わないが、先生にしっかりしてほしいとも思った。P. 6の生活環境について、小学校の6つの項目を子どもに照らし合わせると、読書は我が家でも欠けていると思った。子どもは、児童クラブで読んでいると言っているが、このあたりはデータを参考にし、家庭でも取り組んでいきたいと思う。

K委員

パブリックコメントに関しては、いろいろなご意見があり、市の考えということで回答をいただいているため、この通りでよいのではないかと思う。学力調査について、小学校から中学校に移り、中学校はすべて△印（国・県の平均よりも低い）となっており、淋しいと感じる。生活環境について、生活は中学校の様子を見ると、家庭においても、テレビを見たり、テレビゲームをしたりする時間が増えているようだ。このことから、これが影響しているのかと感じた。生活環境において、塾に行くことも必要だろうし、学校での教育も大事かと思うが、集中力も欠けてくると思う。やはり、生活環境の改善は大事なことと思う。ちゃんとした環境・体力を整え、それから学習をしていくことが大切だろう。夜型の人間が増えてきているため、そのあたりの管理も必要だろう。けじめをつけた教育もやっていくことが必要だと思う。

G委員

親としては、生活状況を見て、親の時間に子どもをあわせているような感じがする。親の方が気を引き締めて、子どものペースにあわせることも必要ではないだろうか。父親も母親任せではなく、子どもと身近に向き合っていくべきだろう。

R委員

資料3、P. 3の英語教育について、子どもが通っているH小学校では英語の研究開発のモデル校となっており、3年目か4年目になると聞いている。授業の中に英語を入れて頂き、英語を学んでいる。1年生から本格的な授業内容となっている。先生も細かい教材、試行錯誤して作られ、熱心に取り組んで下さっている。子どもたちも楽しく英語を学んでいるようだ。郷土の歴史や特徴を英語で知ることはいいと思うが、学年に応じた興味のあることから始めてもいいのではないかと思う。レベルが高く、英検にもチャレンジしていると聞く。付属の小学校に通っている子は小6で英検2級を受けるという話も聞く。英語に子どもたちが楽しくできるような環境を作って頂ければと思う。

B委員

パブリックコメントについて、中学校区でこのような意見があったと事務局の方から紹介があったが、子どもさんのことを考えておられ、もっとリアルな課題を保護者の方は実感されていると思い、個人的にはもっと詳しく聞きたいと感じた。鳴門市の学校に行かせておけば間違いないと保護者の方は思いたいし、そう願っていると思う。そのあたりが、課題になってくると思った。学力状況調査について、学力テストはある面仕方ないこともあると思う。個人差もあり、テストの内容もその時々によって変わってくるため、テスト結果が悪いから学力がないというわけではなく、さほど気にはならない。それよりも気になることは、基本となる生活で、同じくらいの時間で寝て起きることに対しての結果である。本当の実態を把握することが必要である。なぜ、同じくらいの時間で寝られないのか。スポーツのためこの日は遅くなるといったバラツキがあるのか、テレビやゲームで乱れた生活になっているのか等の実態の把握が必要くらい心配である。小学校3～6年生のどのあたりで、何によって問題が起こっているのかを把握することが、基礎学力に繋がると思う。スマホをする、テレビゲームをすることは社会の流れもあり、するなどと言ってもするものである。それよりは、生活時間をリズムカルに送るといったことの方がコントロールしやすく、子どもたちも元気に過ごせると思う。

U委員

パブリックコメントについて、英語の能力アップは海外に行くと、英語教育の大切さを感じる。話せる、生きた英語教育が必要である。しっかりとこれからもやって頂きたい。生活状況について、これはほとんど家庭の教育である。寝なければ起きられない。子どもを怒るときは親も怒る。なんでもYesということが、子どもに一生懸命やっていると考えている人が多いようだ。家庭の教育もしっかりとやって、学校、行政、地域とタイアップしていけたらと思う。

会 長

ここに鳴門市の課題があり、それが今回の振興計画に強く反映するため時間を取った。鳴門市の場合、何が問題かということが明らかになってきたと思う。生活自体に課題がある。皆さんはわかっているが、お互いに言い合えない、指摘をすること

に不安感を覚える。それが様々な社会問題を起こしていることも多いにある。T県M市とA市も同じような学力状況で問題を抱えている。例えば、どちらもスポーツを一生懸命やっているがそこよりも厳しい状況である。M市M町の小学生の朝ごはんを食べている率は95%である。A市で93%である。この結果は今回の調査ではなく3週間にわたり、実体調査をした結果である。中学生でも85%である。そう考えると、我々は考えなければならぬと強く思っている。子どもたちの規律指導等にウェイトを置いて、勉強の指導に手が入っていないようにも感じる。鳴門市の先生方を集めた会で、先生方の授業時数は少ないと厳しく言っている。他府県に比べると授業そのものに対する時数が徳島県は少ない。なぜなのかというと、それを他の方に使わなければいけない現実があるからだ。ここに何か大きな課題があるのではと感じる。学校が少子化のため存続が厳しくなっている状況では、何かで全国で匹敵する力をつけようと頑張るものだ。変わっていくチャンスなのである。もう1回、ねじをまわさないといけないのではと感じるため、今回の振興計画がいいきっかけになればと思う。決して、鳴門の先生方がさぼっているわけではない。そうではなく、本当に勉強に力を入れてほしいということだ。それが高等学校の進路実績にも繋がっていくのである。

議事（3）第二期鳴門市教育振興計画（案）について
事務局より、資料5について説明をした。

会 長

いよいよ答申案の決定をする直前となったがいかがか。最終、これだけはこの意見があれば出して頂ければと思う。この案でよいだろうか。それではこれをもって、第二期鳴門市教育振興計画案について一通りの審議が終了したということで、全体についての承認を取らせて頂きたい。これでよければ拍手をお願いしたい。

⇒拍手

議事（4）答申書（案）について
事務局より、資料6について説明をした。

会 長

この答申案でよいだろうか。

⇒異議なし

以上で審議そのものは終了である。ありがとうございました。これまでの感想、これからのご要望等をお願いしたい。

U委員

体育のことだけしかわからないため、偏った意見になったかもしれないが、すばらしい実施計画案だと思っている。今後、より少子化になり、体育の方も学校単位ではなく社会体育になるのではとも思うため、自分のできる範囲で残された時間を有

意義に体育に捧げたいと思う。

B委員

約1年間の間、若手にも関わらずはっきりと意見を述べたと思うが、審議会の皆さまにはあたたかく受け入れて頂いていたと思う。審議会で作られた振興計画自体は魅力あるものになったと思うため、今後、実働させていくにあたり、実施していく方々が計画に引っ張られるのではなく、主体となってやれるような形で運用されていけばと思う。

R委員

このような会に参加させて頂き、改めて、教育が身にしみた。鳴門市の教育委員会さんをはじめ、先生方が子どもたちのためにして下さっていることの大きさがすごくよくわかった。鳴門市と学校と家庭で、子どもたちと共に育っていったらと思う。貴重な1年にお礼を伝えたい。

G委員

5年間のみならず、まだまだこれから先ずっといい方向に向かっていくと思うため、共育のまち鳴門に住む親として、子どもとともに親も一緒に成長していきたいと思う。

K委員

審議会や連合会等の会に出させて頂いているが、一番充実した会だったのではと思う。皆さま方の意見、会の進め方等、いい勉強になった。最終的に立派ないい計画ができて本当によかったと思う。

S委員

自分の子どものことで、今後10年くらいは鳴門市の教育に携わっていくと思っているため、このような立派な計画ができて大変嬉しく思う。

O委員

地域でどのように愛情を持って、経済的にも支えていくかが問題である。子ども自身が社会性や親子の愛情等、昔と比べると薄くなってきていると感じる。社会福祉関係で親御さんを支えていきたいと思う。

Q委員

社会体育で36、37年関わり、学校との付き合いもあり、社会教育委員として35、36年携わり、地域と学校とのパイプ役が必要だと思った。学校評議員で学校と地域と家庭との繋がりが大事だと痛感し、今回参加させて頂いた。今回学んだことを糧に地域と学校と家庭がうまくいくように微力ながら頑張っていきたいと思う。

F委員

皆さんからの意見が本当によく出た会であったと感じる。11年間、教育委員会や

福祉事務所主催の会に参加させて頂いたが、大体は事務局の案がそのまま通り、ほぼ語句の修正ぐらいである。最後でこれほどまでみんなの意見を吸い上げ、内容がひっくり返ったのは初めてであり、すばらしい計画ができたと思う。家庭の方から先生をもっと楽にしてあげることが必要だと感じている。家庭から教育にも協力していきたいと思う。

I 委員

教育には広いジャンル、窓口があり、大変なところだと思った。公民館の利用率減少、ニーズを知ることもできた。公民館について、生涯学習、社会教育において一般的な窓口になれたらと考えている。立派な基本計画ができ、関わることができ、一生の誇りである。勉強させて頂き、改めてお礼をお伝えしたい。

H 委員

市役所の方、教育委員会の方、大変でいらっしやっただろうという気持ちでいっぱいである。私たちの意見を集約しまとめて下さることは大変だと思う。この会の会長さんのご指導により、私たちの意見がいろいろと反映し、とても嬉しく思う。婦人会の関係でこれからも地域に根ざした活動をし、子どもたちを見守っていききたいと思う。地域の誇る史実を継承するということについても、赤十字の人道紙芝居でドイツ館に行き、ドイツの俘虜収容所の紙芝居をしている。読んでわかってくれたのかと思いがらしているが、このようなことがあったということも子どもさんの心の中に残っていただけらいいと思う。昔は名簿があり、保護者の方のことがよくわかり、子どもさんのこともよくわかり、お付き合いもあったが、いつの間にかなくなり、今は個人情報保護法もあり、同じクラスでなければわからない。災害が起こったとき、子どもさんの保護者との関わりがないため、どの方にどのようなお願いをすればよいかわからないことが問題である。個人情報保護法だけでなく、もう少しわかればよいのではと思う。

P 委員

最初は、教育振興計画が何のことかわからない状況であった。1年間を通じて、勉強をし、子どもたちがどう育つのかを考えながらやっていることを知り、勉強になった。今はまだ子育てもしておらず、教師でもないが、このように地域、学校、社会の連携に関わることができてよかったと思っている。今年7月に教員採用試験を受けるため、この経験を活かし、いい教師になれるよう努力したいと思う。

A 委員

不安の中で参加させて頂いたが、たくさんの学びがあった。子どもたちを取り巻く社会状況は我々の子どもの頃と比べ大きく変わっている。不登校の子どもについて、データ上だけでも全国で10万人となっており、四国の中学生全員よりも多い人数である。その子どもたちを救おうという動きも起こっているが、いじめも後を絶たない。学力も上げないといけない。基本的な生活習慣も親の生活形態が変わり、大きく変わってきている。スマホ依存の若者が多い中、人と人が直接顔を見て話す交流、コミュニケーション力が落ちていると言われている。企業の方が学生に一番身に付けて社会へ出てきてほしい力は、10年連続、コミュニケーション力だと言われている。

いる。言われたことはきちんとできるが、応用力はないという問題もあるが、人と人とのやり取り、集団の中で組織としてどう動くか、報告連絡相談という点が難しいと企業の方からは聞く。そのような中、鳴門市の教育はこれからどうするかということで皆さま方と審議をさせて頂き、連携の重要性を実感した。他の都道府県でも連携を全面に挙げているところが多くある。これからは、学校を核とはするが、その支えとなるのは、家庭、地域の人はどうやってすべての子どもを支え、健全育成をしていくかが大きな課題となっている。ここで話し合ったことが実現されていくことが、鳴門市の今後の5年、10年の教育振興の根本的なものと再認識した。また、校区によって、子どもの数が異なる。H校区はわずか7、8年で124人から50何人になり、複式になるのではとも言われている。地域おこし、まちおこしの中で、子どもの数が急激に減っている。学級数が増えている地区もあり、地区によって子どもの数が違うのはなぜか。市長さんに考えて頂きたい。(市街化調整区域は)若い人が住みたくても親族以外は家が建てられないが、子どもが増えている区域は家が建てられており活性化している。若い人をどのようにして引き止めるか、呼び込むか、将来を担う子どもを増やすかということが大きな課題だと思う。共育のまち鳴門の「共」の意味をもう一度考え、地域ぐるみで子どもを育てている鳴門として視察が来るようになれば嬉しいと思う。

会 長

皆さんからご意見、感想をいただいた。教育次長さんからご感想をお願いしたい。

教育次長

これまで6回の審議会をして頂き、ご多用の中ご出席を頂き、様々なご意見をいただいた。我々の視点は行政の視点である。年齢、性別、立場が異なることで多様なご意見をいただき、事務局案が大きく変わるということがあった。このことは、我々の視点と皆さま方の視点に差異があったのだと感じている。多くのご意見を聞くことの必要性を感じた。市民の皆さまの視点に立ち、よい計画を作ってくれたと思う。計画を策定することが目的ではない。推進することで、本市の教育の充実が図られ、子どもたちが豊かな感性と学力でもって、地域や世界で活躍できるように、大人も学ぶ喜び、知る喜び、スポーツをする喜び、幸せを感じて頂き、活力あるまちになっていけたらと思う。「ともに学び育ち合う共育のまち鳴門」という理念を掲げて頂いたが、この実現には皆さま方のご協力は欠かせない。皆さまの任期は審議終了までだが、今後も引き続き、様々なご意見をいただければありがたい限りである。

会 長

振興計画は地方自治体では努力義務のものであるが、教育振興計画はどのまちでもきちんと作られている時代である。今回、鳴門の課題も良さもわかったと思う。少子化の今、子どもがいなくなるのを待って動くのか、もう一つ手前で何か手を打つのが重要なところである。文化行政、体育行政を考えると、体育に対する意識が高い、図書館に対する意識も高い。それではどうやっていくのか。公民館についてどのような形を取っていくのか。機能しなければ意味がないということである。振興計画そのものが教育委員会に何らかの形でいい影響を与えられたらと思う。皆さまも今後ともよろしくお願ひしたい。

4 審議会から答申

5 教育長あいさつ

昨年2月に本審議会に諮問させて頂き、会長をはじめ、委員の皆さま方には精力的に審議を賜り、本日答申をいただいたところである。我が市において教育に関する課題は多々ある。市民の皆さま方の夢や希望、教育に対して持って頂いていることもありがたいことだと思っている。本日頂戴したこの答申の心、文言を拝読させて頂き、計画の中に活かしていきたいと思う。重ねて、会長、委員の皆さまにお礼をお伝えしたい。引き続き、本市の教育、様々な施策について、ご指導ご鞭撻をお願ひしたい。

事務局より、今後の予定について説明をした。

6 閉会